



(第 28 号)

発行所 愛知県三河市
高松高等学校内
香川県喜多郡高松市
発行 大西 大介
責任者 大西 大介
印刷所 石田印刷(株)

平成十九年度 理事会・代議員会 開催される

東海支部が設立され、一本部五支部体制となった。会員五万人時代を迎え、各支部の活性化と本部支部のネットワークを活かして、同窓会活動のより一層の発展を期した。

平成十九年度玉翠会
理事会は六月十六日
(土)午後一時より高松
高校会議室にて四十名
の出席にて開かれ、続
いて代議員会は午後二
時十分より五階玉翠会
館ホールに百三十名の
出席をもって開かれた。
理事会に続いて開か

れた代議員会において
は、開会に先立ち、昨
年度以降事務局にご逝
去の連絡をいただいた、
故岡観隆理事(高中五
二回卒)、古竹久雄理事
(高高三〇年卒)、東京
玉翠会元会長辻義文氏
(高中五〇回卒)、関西
玉翠会元副会長亀井く



流 還 人 材 玉 翠 会 会 長 大 西 大 介

玉翠会会員の皆様には、
益々ご健勝にてご活躍の
こととお慶び申し上げます。
昨年六月に玉翠会会長
の任を引き継ぎ、あっと
いう間の一年が過ぎ去っ
てしまいました。改めて
月日の経つ早さに驚いて
いる次第です。この間、
諸行事が滞りなく円滑に
運営されておりますこと
は、ひとえに会員の皆様
方のご理解とご支援の賜
と深く感謝申し上げます。
本部も学校と手を携えて
高松の発展のため事業運
営をしています。各支
部も大変活発に活動され

ており、東京をはじめ関
西、岡山、徳島で毎年支
部総会が盛大に開かれて
おります。さる六月二日
には東海玉翠会が創立さ
れ、玉翠会是一本部五支
部体制となりました。東
海玉翠会の設立総会は和
やかな雰囲気の中に開か
れ、素晴らしい玉翠会支
部の誕生となりました事
を申し添えておきます。
各支部が活性化してい
ることは大変嬉しいこと
なのですが、それは名門
高松高校卒の優秀な人材
が各地へ流出し、そのこ
とがそのまま高松の空洞
化を引き起こしている

いる。また、六月二日
には東海玉翠会第一回
総会に出席をさせてい
ただいたが、和やかな
とてもよい雰囲気の中
であった。各地で同窓
生が、より盛り上がり
ている様子が嬉しい。
北海道など、他でも支
部ができることを期待
したい。」と挨拶があっ
た。

続いて溝渕校長より
「皆様の物心両面のご支
援のおかげで生徒の学
習環境の充実はもちろん
、進路意識を持たせる
事業で諸先輩方の多
大なご協力を得て、学
校としても心強い。昨
年度は甲子園出場記念
教育基金で、第二グラ
ンドに野球部雨天練習
場や散水施設等も整え

ており、東京をはじめ関
西、岡山、徳島で毎年支
部総会が盛大に開かれて
おります。さる六月二日
には東海玉翠会が創立さ
れ、玉翠会是一本部五支
部体制となりました。東
海玉翠会の設立総会は和
やかな雰囲気の中に開か
れ、素晴らしい玉翠会支
部の誕生となりました事
を申し添えておきます。
各支部が活性化してい
ることは大変嬉しいこと
なのですが、それは名門
高松高校卒の優秀な人材
が各地へ流出し、そのこ
とがそのまま高松の空洞
化を引き起こしている

要があると思うのですが、
玉翠会で何か出来ないか
高松高校で何か出来ない
かと考えると幾つかの方
法はあると思います。高
校サイドとしては高校生
の時から地場の特異な優
良企業でインターンシッ
プ体験をさせて大卒後の
就業意欲を持たす。玉翠
会サイドでは本部、支部
のネットワークを活かし
Uターン希望者への企業
斡旋、地元ベンチャーキ
ャピタルと地元で起業し
ようとする卒業生との取
り持ち、或いは地元で余
生を暮らしたい人への遊
休資産の紹介などが考え
られます。

卒業生にとってふる里
が元氣なことは何か心強
さを感じさせるものと思
います。世界で活躍する
会員、日本で活躍する会
員が増えるだけでなく、
地元や各地で活躍する会
員とのバランスが取れて
こそ日本一の同窓会組織
玉翠会だと思えます。玉
翠会の新しい使命として
このようなことが出来れ
ば良いなと考えています。
最後になりましたが、
皆様方の更なるご健勝と
ご発展を祈念いたしまし
て、ご挨拶とさせていただきます。

代を中心に理事を増員
してはどうか、という
ご提案があり、会場の
賛成を得た。来年の代
議員会にて示したいと
のことであった。
最後に事務局より以
下の事務連絡があった。
○「会報・会費の納
入について」今年度の
会報(本誌)は、来年
平成二〇年の名簿の発
行を控え、住所の確認
も含め、大正以降の卒
業生全員にお送りし、
多くの会員の皆様から
の会費の納入をお願い
したい。
○「名簿の編集・発
行について」従来五年
ごとに発行を続けてき
た名簿の次の発行は、
来年平成二〇年夏を予
定しており、体裁は従
来のスタイルを予定し
ている。高中、高高一
つについては旧姓での索引
も加わる予定である。
会員全員には、今年十
月頃に業者(「サルト」
姫路市)より、調査ハ
ガキが送付される予定
が元氣なことは何か心強
さを感じさせるものと思
います。世界で活躍する
会員、日本で活躍する会
員が増えるだけでなく、
地元や各地で活躍する会
員とのバランスが取れて
こそ日本一の同窓会組織
玉翠会だと思えます。玉
翠会の新しい使命として
このようなことが出来れ
ば良いなと考えています。
最後になりましたが、
皆様方の更なるご健勝と
ご発展を祈念いたしまし
て、ご挨拶とさせていただきます。

させていただいた。一
方生徒には、才と徳の
両方備わった人間にな
ってほしいと指導してい
る。皆様には今後とも
ご理解ご支援をよろし
くお願いしたい。」と挨
拶が続いた。

議事は会則に従い大
西会長の議長のもと進
められた。事務局より
平成十八年度事業報告
及び会計収支決算報告
が行われ、前田監事の
監査報告の後、拍手で
承認された。続いて平
成十九年度事業計画案
及び会計収支予算案の
審議が行われ、原案ど
おり承認された。

役員の異動について
は、事務局から、前述
の二人の理事のご逝去
に伴い、昨年度の役員
からその二名を除いた
今年度の役員案が示さ
れ、拍手により承認さ
れた。また、大西会長
から、理事の増員につ
いて、五年後の創立一
二〇周年に向け、生徒
数の多かった団塊の世

代を中心として理事を増員
してはどうか、という
ご提案があり、会場の
賛成を得た。来年の代
議員会にて示したいと
のことであった。
最後に事務局より以
下の事務連絡があった。
○「会報・会費の納
入について」今年度の
会報(本誌)は、来年
平成二〇年の名簿の発
行を控え、住所の確認
も含め、大正以降の卒
業生全員にお送りし、
多くの会員の皆様から
の会費の納入をお願い
したい。
○「名簿の編集・発
行について」従来五年
ごとに発行を続けてき
た名簿の次の発行は、
来年平成二〇年夏を予
定しており、体裁は従
来のスタイルを予定し
ている。高中、高高一
つについては旧姓での索引
も加わる予定である。
会員全員には、今年十
月頃に業者(「サルト」
姫路市)より、調査ハ
ガキが送付される予定
が元氣なことは何か心強
さを感じさせるものと思
います。世界で活躍する
会員、日本で活躍する会
員が増えるだけでなく、
地元や各地で活躍する会
員とのバランスが取れて
こそ日本一の同窓会組織
玉翠会だと思えます。玉
翠会の新しい使命として
このようなことが出来れ
ば良いなと考えています。
最後になりましたが、
皆様方の更なるご健勝と
ご発展を祈念いたしまし
て、ご挨拶とさせていただきます。

要があると思うのですが、
玉翠会で何か出来ないか
高松高校で何か出来ない
かと考えると幾つかの方
法はあると思います。高
校サイドとしては高校生
の時から地場の特異な優
良企業でインターンシッ
プ体験をさせて大卒後の
就業意欲を持たす。玉翠
会サイドでは本部、支部
のネットワークを活かし
Uターン希望者への企業
斡旋、地元ベンチャーキ
ャピタルと地元で起業し
ようとする卒業生との取
り持ち、或いは地元で余
生を暮らしたい人への遊
休資産の紹介などが考え
られます。

卒業生にとってふる里
が元氣なことは何か心強
さを感じさせるものと思
います。世界で活躍する
会員、日本で活躍する会
員が増えるだけでなく、
地元や各地で活躍する会
員とのバランスが取れて
こそ日本一の同窓会組織
玉翠会だと思えます。玉
翠会の新しい使命として
このようなことが出来れ
ば良いなと考えています。
最後になりましたが、
皆様方の更なるご健勝と
ご発展を祈念いたしまし
て、ご挨拶とさせていただきます。

要があると思うのですが、
玉翠会で何か出来ないか
高松高校で何か出来ない
かと考えると幾つかの方
法はあると思います。高
校サイドとしては高校生
の時から地場の特異な優
良企業でインターンシッ
プ体験をさせて大卒後の
就業意欲を持たす。玉翠
会サイドでは本部、支部
のネットワークを活かし
Uターン希望者への企業
斡旋、地元ベンチャーキ
ャピタルと地元で起業し
ようとする卒業生との取
り持ち、或いは地元で余
生を暮らしたい人への遊
休資産の紹介などが考え
られます。

要があると思うのですが、
玉翠会で何か出来ないか
高松高校で何か出来ない
かと考えると幾つかの方
法はあると思います。高
校サイドとしては高校生
の時から地場の特異な優
良企業でインターンシッ
プ体験をさせて大卒後の
就業意欲を持たす。玉翠
会サイドでは本部、支部
のネットワークを活かし
Uターン希望者への企業
斡旋、地元ベンチャーキ
ャピタルと地元で起業し
ようとする卒業生との取
り持ち、或いは地元で余
生を暮らしたい人への遊
休資産の紹介などが考え
られます。

である。

○「先輩講演会とG
GAの案内」(本誌八面
参照)

○「制服展示ショウ
ケースの完成の案内」
五階玉翠会館ホールの
前に、曲面ガラスを使っ
たショーケースを作り、
創立百十周年記念に再
現させた高中・県女か
らの制服(百十周年記
念誌に写真掲載)を
マネキンを特注して展
示しているが、ゲート
ルの巻き方等、お教え
頂きたい。
以上の連絡であった。
最後に岩部隆副会長
の閉会のことばで平成
十九年度玉翠会代議員
会を終了した。

玉翠会の皆様には益々
ご健勝にてご活躍のこ
ととお慶び申し上げます。
また、平素より母
校の教育活動に対して
深いご理解と温かいご
支援を賜り、厚くお礼
申し上げます。
さて、「囊中の錐」と
いう言葉が『史記』平
原君傳に出てきます。
才智ある優れた人物は、
袋の中に錐があるよう
なもので、いつかはそ
の穂先が袋を突き出て、
持ち前の鋭鋒伎倆を現
し、例え大勢の中にい
ても、頭角を現してく
る。同じく「人中の龍」
も『晋書』の中に言葉
で、才徳備わった人物
は、人中の龍のような
もので、その非凡さは
計り知れない。いずれ
見龍となって世に出て



囊中の錐、人中の龍

高松高等学校長 溝渕利博

『チャレンジング甲子園』大会の開催
来る八月二十二日
(水)、香川県営野球場
「サーパススタジアム」
にて、『チャレンジング
甲子園』と銘打った大
会が開催されます。これ
は平成十七年春の選抜
高校野球大会で対戦し
た宇部商業高校野球部
を招き、長年本校野球
部としてのぎを削った
高松商業高校野球部
を交えた三校で交流試
合を行うものです。
ご存知の通り、高松
高校野球部はこれまで
八回の甲子園出場を果
たして来ましたが、未だ

記憶に新しい平成十七
年の大会も、甲子園の
観客席を埋め尽くした
七千人の応援団と野球
部員たち、そして会場
には行けずともテレビ
やラジオで試合の行方
を見守った多くの同窓
生の方々にとって、ま
さに高松高校の名の下
に丸となった、至福
の時間だったのではな
いでしょうか。
この『チャレンジン
グ甲子園』大会の企画
が高松高校のさらなる
活性化と本年で創部百
十周年を迎えた高松高

球部の九回目の甲子園
出場を果たすための
一歩となってくれるこ
とを期待しています。
当日の日程は、九時
より第一試合高松対宇
部商、十二時より第二
試合宇部商対高商、十
五時より第三試合高商
対高商となります。(天
候などの都合で、日程
を変更することがあり
ます)。観戦は無料です
ので、ぜひ会場に足を
運びいただき、甲子園
に思いを馳せるひとと
きをお過ごしください。

くると言われている。

高松高校は今年創立
百十五年目を迎えます。
明治・大正・昭和・平
成の四世代にわたる卒
業生の数も今や五万人
を越え、我が国は勿論
世界の各界各分野にお
いて目覚ましい活躍を
されています。毎年の
ように各地で学年・地
域・職域・同好会・部
活OB会などの同窓会
が開かれ、その規模と
活発さにおいて全国有
数の同総会として知ら
れています。これら活
発な同総会活動は、一
面では卒業生の母校や
後輩たちに対する熱い
想いと期待の大きさを
表れてはいないかと思
います。今後とも
先輩講演会・GGA
(玉翠グローバルアカデ
ミー)や文化祭ホーム

カミングデー、キャリ
アガイダンス講座、二
年生のキャリア研修旅
行など卒業生と在校生
を結ぶ交流事業を行っ
ています。また、卒業
生の活躍ぶりも校内広
報掲示板で積極的に紹
介しています。在校生
にとっては、有形無形
の励みや誇りとなっ
ているようです。
現在、高松高校では
全日制が各学年八クラ
スの九百六十二名、定
時制四十三名、通信制
三百二十三名の計千三
百二十八名の才気溢れ
る生徒達が、勉学と部
活動の両立に励み、進
学面や部活動で優れた
実績を上げるなど活躍
しています。今後とも
教職員と手を携えて、
高松中学校の「至誠一

カミングデー、キャリ
アガイダンス講座、二
年生のキャリア研修旅
行など卒業生と在校生
を結ぶ交流事業を行っ
ています。また、卒業
生の活躍ぶりも校内広
報掲示板で積極的に紹
介しています。在校生
にとっては、有形無形
の励みや誇りとなっ
ているようです。
現在、高松高校では
全日制が各学年八クラ
スの九百六十二名、定
時制四十三名、通信制
三百二十三名の計千三
百二十八名の才気溢れ
る生徒達が、勉学と部
活動の両立に励み、進
学面や部活動で優れた
実績を上げるなど活躍
しています。今後とも
教職員と手を携えて、
高松中学校の「至誠一

カミングデー、キャリ
アガイダンス講座、二
年生のキャリア研修旅
行など卒業生と在校生
を結ぶ交流事業を行っ
ています。また、卒業
生の活躍ぶりも校内広
報掲示板で積極的に紹
介しています。在校生
にとっては、有形無形
の励みや誇りとなっ
ているようです。
現在、高松高校では
全日制が各学年八クラ
スの九百六十二名、定
時制四十三名、通信制
三百二十三名の計千三
百二十八名の才気溢れ
る生徒達が、勉学と部
活動の両立に励み、進
学面や部活動で優れた
実績を上げるなど活躍
しています。今後とも
教職員と手を携えて、
高松中学校の「至誠一

玉翠会役員

本部	(会長)	大西 大介
	(副会長)	岩部 隆
	(副会長)	脇 和子
	(副会長)	榎田 實
	(副会長)	加藤 宏一郎
	(副会長)	常谷 忠克
	(顧問)	岡野 美代子
	(顧問)	多田野 久
支部	(東京玉翠会会長)	渡辺 修
	(副会長)	永野 精子
	(副会長)	高田 トシ子
	(事務局)	岩崎 昭宏
	(関西玉翠会会長)	藤井 義弘
	(副会長)	島田 清隆
	(副会長)	川西 艶子
	(副会長)	斎藤 京子
	(副会長)	樋口 順一
	(副会長)	田島 朋子
	(岡山玉翠会会長)	辻 孝夫
	(副会長)	太田 武夫
	(副会長)	清水 育子
	(副会長)	河野 一郎
	(事務局)	多田 讓治

議員簿

高中部会	村尾 穂積・森 慶太郎・國宗 武男・小西 行三・逸見正次郎・古川 静夫・小川 旭・上原 明正・加島 健・竹内 正・松島 良平・原内 平・松野 隆明・渡辺 弘・泉川 孝平・山田 幹夫・木内 正夫・渡邊 典雄・塩田 良弘・黒田 昌男・荒木 幹雄・清谷 圭一・増田 照夫・谷川 一典・河野 猛・水野 直樹
晩翠部会	岸本 哲代・久保田千代・明石よしえ・筒井かおる・綾田 絹江・中村 政子・國宗 博子・鈴木タツエ・穴吹 武子・杉山 清子・渡辺 綾子・鎌田 静子・香月 フミ・川西 美代・丸尾喜美子・中村美恵子・久米八寿子・森永 栄・平井 貞子・井上 敬子・藤田 幸子・伊藤喜美子・筈井 愛栄・和泉 和・山田 恵子・遅澤シズ子・滝口 清子・山形 美自・岩井美智子・川渾 信子・秋山多美子・荒木 聡子・上原美智子・加藤 鎮子・佐藤 恭子・神谷 順子・松田 郁子・西尾 信子・伊藤 悦子・矢野坂愛子・岡部 澄子・水野 綾子・石原 卿子・玉城 玲子
高髙部会	理事 佐藤 嘉子・太田 英章・今澤 暉子・大塚 裕康・藤本 稔・前谷 亮三・白井 治・大林 義和・谷森 勉・石原 英輝・豊田 章二・徳永 孝明・小川 和彦・森田 紘一・吉岡 哲朗・村井 恵子・中山 隆司・中村 秀明・石橋貴知子・中村合威・三木 美蘭・中 博史・小島 英夫・間島 賢治・石田 謙作・中村合則・灘波 博司・中山 千晶・亀井 正好・小早川龍司・井本 康裕・森下 聖更・稲田 耕一・森川 輝男・野網 省平・中村 章夫・川東 孝俊・監事 前田 道正

中村 敬子・真鍋千賀子・吉田 晃・塩田 正章・松原 剛・秋山夫佐子・中障子子・岡崎 勝一・増田 勝彦・溝川 淳子・星川美智子・遠藤 忠知・合田 武・森田 幸子・日野 弓楓・岡崎 進・上野 文夫・八代 紀子・横井 佑子・木村大三郎・塚本 修・佐竹 睦子・加藤 祥子・高濱 孝・谷沢 一朗・筈井ミヤコ・谷本 明子・千切多一郎・鎌田 基志・岡田佳代子・飛田 久子・山内 康生・三宅加代子・北岡 保之・松尾久美子・佐藤 康弘・朝国太啓子・植田 重則・藤田 孝・大和田昭邦・尾崎 正澄・嶋 由利子・濱本貴美子・角田 朝則・中村美利子・真屋 正明・古市 恵子・香西 幸夫・牟禮 明・高橋 博之・松山千恵子・平井 大資・海部 泰夫・十河 喜代・川西 笑子・池田 紀治・上野 準一・堀家みどり・森 佐知子・小河 雄磨・井上 哲・重松佐栄子・糸瀬 敏恵・笹島 幹豊・榊原 賢治・穴吹 恵美・神内 幾代・鎌田順二郎・図子 泰・飯間 康代・長嶋 佳子・嶋村 昭・檀原万里子・池田 恵子・松山 哲也・岡 永二・土居 譲治・泉 曉美・織田 幹子・佐伯 典久・福田 安伸・久保 睦子・久松吾都子・修理 伸一・横山 忠則・大西 葉子・浜崎 泰子・神内 正信・和田 知文・稲本賀世子・橋本 映美・三島 義之・新名 孝司・北条ひとみ・大石伊都子・吉田 守秀・岸田 光哉・吉川 正美・松下 節子・松延 健二・木下 雅子・藤野 勢津・斎藤 雅春・松岡 利佳・江見 壽建・石濱 英暢・松野 千珠・新谷 昭雄・高木 美穂・出射恵美子	野口 宏二・門脇 慎人・川井 幸・風呂 貴子・宮脇 森・藤谷良太郎・小野山千津・北島 桐子・前野 勝彦・坂本 耕一・久米寿美子・高木 美香・下地 崇弘・前田恵美子・吉田 智・大倉 恵美・藤沢康一郎・小野 正博・宮田 弘恵・筒井 智子・西口 敦・篠原 隆司・桑島利江子・大門由美子・池田 康之・三好 啓介・木下 晶・三崎 恵奈・滝口 英城・富岡 貴美・井上菜々子・三好 享・千切耕一郎・前谷 季妙・世儀 賢一・井上 直人・西谷 曉子・岡田いずみ・西口 潤・神内 克知・石原 志保・井手下和洋・渡辺 光明・西口 園恵・川西 章弘・山上 佳樹・熊 宏美・大野 明美・大橋 弘毅・山下 徹・串田 えみ・濱田 洋子・阪本 朋彦・香西 晴之・西岡佐知子・朝倉 理映・清水 洋平・赤崎 哲也・松本 順子・大賀 純子・松岡 敬三・鎌田 長明・川東 昌子・中嶋 真紀・長町 篤・高橋 優介・亀井 寿宏・渡辺 邦広・糸瀬 ふみ・次田 紗己・横山 勇介・戸島 陽平・石原ゆかり・淀谷 光子・千葉 一孝・佐藤 傑・河本 和美・南原加代子・森谷 拓朗・淵田 慎也・長井 綾子・桑村 英里・柴田 真幸・尾路 紘一・橋倉今日子・永井 幸子・加藤 集平・富家 嘉顕・黒川あゆみ・鍋嶋 明子・小林 俊博・笹島 正豊・富田 唯・上春 美奈・陶山 真固・中村 茉莉・石井 裕世・納田 裕崇
定通部会	藤沢 康良・横峰 豊・松崎 善忠・玉木 勲

先輩講演会



平成十八年度先輩講演会が、三菱重工工業株式会社取締役会長の西岡喬氏をお招きして、十一月八日(水) 高松高校体育館で行われた。

西岡氏は、東京大学工学部卒業後、三菱重工工業株式会社に入社し、名古屋航空宇宙システム製作所長、航空機・特事事業本部長を歴任し、二〇〇三年に取締役会長に就任、現在に至る。

西岡氏は、自己紹介の中で、ご自身の幼い頃は戦時中の壊れた部品をかき集めて、鉋石ラジオや望遠鏡を作っていたこと、星空に興味を抱き、宇宙の神秘や未知なるものに対する憧れを抱いていたことを語られた。この幼少の頃に持った興味から、宇宙を探求する学問、また高度な数学的分野の研究に魅力を感じ、航空学科を志望するようになったとおっしゃられた。次に、三菱重工で製作している製品を紹介していただき、その分野が大変多岐にわたることに驚く生徒も多数いた。西岡氏のご専門である航空機産業や宇宙は、人々にとって大変夢のある事業であり、日本の将来を考える際に、必要なことでもあるので、この夢の具現化に現在全力を尽くしている」と語られた。これらの

印象に残った研修旅行

全日制課程二年生が、東京方面での先輩の職場訪問を伴う研修旅行を、平成十八年六月二十日から二十三日までの三泊四日で行った。一日目は松本城や白樺湖を見学、二日目は旧軽井沢地区散策／富士山周辺散策、三日目には東京都内及び近郊での班別自主研修、四日目は江戸東京博物館を見学し帰途に就くという行程であった。

三日目の東京都内及び近郊での班別自主研修は、東京玉翠会の全面的な協力のもとで行われた。玉翠会の会員がお勤めの企業、研究所等を訪問し、仕事の内容や施設等を詳しく説明していただいた。また、外部の者では決して立ち入ることのできないような部分にまで足を踏み入れさせていただくこともあり、大変貴重な体験をさせていただいた。お世話になった東京玉翠会の皆様には計り知れないご尽力をいただいた。平成十八年度に研修を受け入れていただいた企業は以下の通りである。(順不同)

JETRO(日本貿易振興機構) 国土交通省

と持って、常に夢を持って生きて欲しい」ということであった。講演終了後も、生徒からの質問が相次ぎ状況を呈した。時代の最先端で活躍され、現在も目を輝かせて夢を語る先輩の講演に、後輩たちは多大な啓発を受けたようであった。

防衛庁
大西昭一郎法律事務所
岡崎・大橋・前田法律事務所
務所

ひびき法律事務所
梶谷綜合法律事務所
阿部・井津・片山法律事務所
早稲田大学
東京工業大学
原子炉工学研究所
東京大学大学院医学系研究科
外科学専攻肝胆臓外科
東京大学大学院工学系研究科
航空宇宙工学専攻
大成建設(株)
(株)ブランドアソシエイツ
(建築設計事務所)
(株)東芝 府中電力・社会システム工場
エスビー食品(株)
三菱重工(株)プラント・交通システム事業センター
(株)ナイキジャパン
ソニー(株)
マイクロソフト(株)
NHK(日本放送協会) 日活(株)
(株)電通
(助)ヤマハ音楽振興会
エイベックス・グループ・ホールディングス(株)
ベルギービル広報センター
平成十九年度も六月二十日から二十三日の期間、同様の研修旅行が行われた。二十六の企業・大学等にご協力いただいた。本年度の研修も高高一人一人にとって、自分の将来の展望を見出す、有意義なものとなった。平成十九年度 研修旅行日程

六月二十日(水)
学校↓高松空港↓羽田空港↓東京都内見学↓ホテルニューオータニ幕張(泊)
六月二十一日(木)
ホテル↓東京都内及び近郊班別研修↓シェラトン・グランデ・トーキョーベイ・ホテル(泊)
六月二十二日(金)
ホテル↓デイズニールンド/デイズニールー↓ホテル(泊)
六月二十三日(土)
ホテル↓東京都内及び横浜方面見学↓羽田空港↓高松空港↓学校
◎研修を終えての生徒感想(JETRO)
非常に多くのことを学ぶことができて、心の中に新鮮な風が吹くと共に爽やかな感動を得ることができました。特に印象に残っているのは、渡辺前理事長の「人の苦しみを知り、やさしさを持って活動する。結局は心の問題である。」というお話です。まだまだ私は未熟なのでこのことを身に付けられていませんが、JETROで働いていらっしゃる方のように、常に明確な目標、向上心、ユーモアの精神、好奇心を持って、あくなき努力を忘れずに成長していきたいと思っています。研修を通じて、ただ懂れるだけではなく、「いつか自分も」という活力が湧いてきました。



平成 18 年度 玉翠会会計収支決算書

〈収入の部〉

費 目	金 額
1 玉 翠 会 入 会 金	1,034,400
2 玉 翠 会 会 費	8,565,300
3 広 告 料	0
4 雑 収 入	11,848
5 前 年 度 繰 越 金	24,173,226
計	33,784,774

〈支出の部〉

費 目	金 額
1 本 部 運 営 費	5,274,061
(1)玉 翠 会 運 営 費	919,463
(2)慶 弔 費	361,020
(3)玉翠会報発行費	2,393,578
(4)職 員 給 与	1,600,000
2 支 部 運 営 費	1,105,380
(1)支 部 総 会 お 祝	350,000
(2)支 部 総 会 旅 費	755,380
3 卒 業 生 記 念 品 料	116,403
4 学 校 助 成 金	2,000,000
5 備 品 充 実 費	1,053,360
6 教育基金へ繰入	1,728,000
7 退 職 積 立 金	200,000
8 予 備 費	0
9 次 年 度 繰 越 金	22,307,570
計	33,784,774

平成 19 年度 玉翠会会計収支予算書

〈収入の部〉

費 目	金 額
1 玉 翠 会 入 会 金	1,053,000
2 玉 翠 会 会 費	8,500,000
3 広 告 料	0
4 雑 収 入	12,430
5 前 年 度 繰 越 金	22,307,570
計	31,873,000

〈支出の部〉

費 目	金 額
1 本 部 運 営 費	6,800,000
(1)玉 翠 会 運 営 費	1,000,000
(2)慶 弔 費	500,000
(3)玉翠会報発行費	3,700,000
(4)職 員 給 与	1,600,000
2 支 部 運 営 費	1,300,000
(1)支 部 総 会 お 祝	400,000
(2)支 部 総 会 旅 費	900,000
3 卒 業 生 記 念 品 料	120,000
4 学 校 助 成 金	1,500,000
5 備 品 充 実 費	500,000
6 教育基金へ繰入	1,782,000
7 退 職 積 立 金	0
8 予 備 費	500,000
9 次 年 度 繰 越 金	19,371,000
計	31,873,000

創立百周年記念玉翠会教育基金 平成 18 年度収支決算書

〈収入の部〉

費 目	金 額
1 玉翠会会計より繰入金	1,728,000
2 預 金 利 息	10,880
3 雑 収 入	0
4 前 年 度 繰 越 金	22,166,419
合 計	23,905,299

〈支出の部〉

費 目	金 額
1 奨 学 金	1,699,200
2 教 育 活 動 費	0
3 予 備 費	1,231
4 次 年 度 繰 越 金	22,204,868
合 計	23,905,299

創立百周年記念玉翠会教育基金 平成 19 年度収支予算書

〈収入の部〉

費 目	金 額
1 玉翠会会計より繰入金	1,782,000
2 預 金 利 息	11,132
3 雑 収 入	0
4 前 年 度 繰 越 金	22,204,868
合 計	23,998,000

〈支出の部〉

費 目	金 額
1 奨 学 金	1,782,000
2 教 育 活 動 費	200,000
3 予 備 費	50,000
4 次 年 度 繰 越 金	21,966,000
合 計	23,998,000

玉翠会から図書館へのご寄贈について

平成18年度、東京玉翠会より寄付金15万円があり、下記の図書を購入致しました。

『世界美術大全集 東洋編 第 5 巻～第 12巻』 約 15 万円

玉翠関係寄贈図書

脇 明子氏（昭和41年卒）	『魔法ファンタジーの世界』	1 部
前田 純一氏（昭和40年卒）	『鳳作の季節』	1 部
竹下 和男氏（昭和43年卒）	『台所に立つ子どもたち』	1 部
	『食卓の向こう側 8 ～食育その力～』	1 部
上野 邦一氏（昭和37年卒）	『描いて学ぶ ー私の訪れた建物、町、遺跡ー』	1 部
内海 善雄氏（昭和36年卒）	『国連専門機関の事務総局長が“勝つ”ための国際交渉術教えます！』	2 部
木村 俊彦氏（昭和19年高中卒）	『構造設計の初心ー木村俊彦＝初期の軌跡』	1 部
	『別冊新建築 日本現代建築シリーズ⑩ 木村俊彦』	1 部
武井 光雄氏（昭和18年高中卒）	『ローマ人の物語 X V ローマ世界の終焉』	1 部
棚木 恒寿氏（平成 5 年卒）	『歌集 天の腕』	1 部
永井 勝雄氏（昭和36年卒）	『小説・高松高校の男たち』	1 部
丸山 茂樹氏（昭和41年卒）	『陶匠 濱田庄司 青春轡轡』	1 部
真部満智子氏（昭和38年卒）	『恋の前方後円墳』	2 部
鎌野 咲氏（昭和19年卒）	『続 咲くやこの花』	2 部

玉翠関係寄付

西岡 喬氏（昭和30年卒） 図書カード 5000 円×20 枚

平成 18 年度 玉翠会事業報告

月	日	曜	事 業 名	会 場
5	16	火	玉翠会会長・副会長会	校長室
6	1	木	会計監査	5 階会議室
6	10	土	玉翠会理事会	1 階会議室
			玉翠会代議員会	玉翠ホール
			玉翠会教育基金運営委員会 甲子園教育基金運営委員会	玉翠会議室
			玉翠会・P T A 合同歓送迎会	リーガホテルゼスト高松
7	5	水	玉翠会報第 27 号発行	
7	8	土	東京玉翠会総会	ホテルパシフィック東京
9	9・10	土・日	第 56 回文化祭	高松高校
9	30	土	関西玉翠会総会	帝国ホテル大阪
10	22	日	岡山玉翠会総会	アークホテル岡山
11	8	水	先輩講演会（高高30年卒 西岡 喬氏 三菱重工業 会長 経団連 副会長）	体育館
1	6	土	徳島玉翠会総会	ホテルグランドパレス徳島
2	19	月	玉翠会会長・副会長会	校長室
3	6	火	卒業式	体育館

平成 19 年度 玉翠会事業計画

月	日	曜	事 業 名	会 場
5	29	火	玉翠会会長・副会長会	校長室
5	31	木	会計監査	5 階会議室
6	2	土	東海玉翠会第 1 回総会	名鉄グランドホテル
6	16	土	玉翠会理事会	1 階会議室
			玉翠会代議員会	玉翠ホール
			玉翠会教育基金運営委員会 甲子園教育基金運営委員会	校長室
			玉翠会・P T A 合同歓送迎会	リーガホテルゼスト高松
7	4	水	玉翠会報第 28 号発行	
7	5	木	東京玉翠会総会	ホテルパシフィック東京
9	8・9	土・日	第 57 回文化祭	高松高校
10	21	日	岡山玉翠会総会	アークホテル岡山
11	10	土	関西玉翠会総会	大阪全日空ホテル
11	13	火	先輩講演会（高高36年卒 内藤善雄氏 トヨタ IT 開発センター最高顧問 前 ITU 事務総局長）	体育館
1	5	土	徳島玉翠会総会	
2			玉翠会会長・副会長会	校長室
3	6	木	卒業式	体育館

甲子園出場記念教育基金 平成 18 年度収支決算書

〈収入の部〉

費 目	金 額
1 雑 収 入	46
2 前 年 度 繰 越 金	50,077,917
合 計	50,077,963

※（内訳）雨天練習場・散水設備等整備

〈支出の部〉

費 目	金 額
1 教 育 活 動 費	27,754,650
2 雑 費	500
3 次 年 度 繰 越 金	22,322,813
合 計	50,077,963

甲子園出場記念教育基金 平成 19 年度収支予算書

〈収入の部〉

費 目	金 額
1 雑 収 入	10,000
2 前 年 度 繰 越 金	22,322,813
合 計	22,332,813

※（内訳）トレーニング設備・チャレンジング甲子園大会費

〈支出の部〉

費 目	金 額
1 教 育 活 動 費	9,000,000
2 雑 費	1,000
3 次 年 度 繰 越 金	13,331,813
合 計	22,332,813

平成 19 年度 教職員人事異動

【退 職】		
保体 教諭	綾 博美	
事務主事	甲斐淳子	
【転 出】		
日史 教頭	森 明夫	津田高校教頭へ
国語 教諭	池西 裕	津田高校へ
生物 教諭	三木武司	土庄高校へ
化学 教諭	松木聡司	高校教育課主任指導主事へ
英語 教諭	風呂貴子	土庄高校へ
保体 教諭	嶋田秀和	高松工芸高校へ
生物 教諭	福西節子	高松工芸高校へ
家庭 教諭	楨 郁子	高松桜井高校へ
数学 教諭	辻 綾	琴平高校へ
数学 講師	尾形有香	高松養護学校へ
事務部長補佐	諏訪景子	聾学校事務部長へ
【転入・新任】		
保体 教頭	大熊正和	高松市少年育成センター補導主事から
英語 教諭	内藤具子	高松南高校から
保体 教諭	宮本明弘	三本松高校から
保体 教諭	津田和樹	高松北高校から
世史 教諭	中村昭浩	高松北高校から
生物 教諭	藤枝秀樹	教育センター指導主事から
化学 教諭	久保博信	高松東高校から
数学 教諭	齋藤祥子	三木高校から
国語 教諭	迫田達也	農業経営高校から
数学 講師	大島光博	高松北高校から
数学 講師	松岡大我	新規採用
英語 講師	大西泰斗	新規採用
生物 講師	河瀬佳夫	
保体 講師	多田満紀	香川中央高校から
事務 主任	合田仁美	三本松高校から
事務主任主事	岡田成広	土庄高校から

支部会だより

東京玉翠会 Tokyo gyokusui

本格的な夏の訪れを迎えておりますが、玉翠会の皆様方におかれましてはご健勝のこととお慶び申し上げます。

東京玉翠会では毎年7月第2土曜日に総会を開催しています。毎年真夏

の暑い日差しを感じると

東京では総会の季節という感じがします。今年の総会は第25回記念総会という

ことで、四半世紀の歴史を刻む記念の総会となります。また東京玉翠会

は「卒業25年目に総会幹事を担当する」という原則で運営していますが、その意味でもひとまわりしたということで、幹事を担当する身としては「あたり年」という感じ

です。さて、今年の東京玉翠会総会のテーマは「25年目の文化祭」としました。文化祭の思い出というものはやはりみなさんの共通した原点なのかという

気がします。

今年の総会企画の目玉はスペシャルオープニング(オペラ・フォークダンス・瓦せんべいの3点です。スペシャルオープニングでは「世界のプリマドンナ」林康子先輩(昭和37年卒)に歌って

いただくために浜松からシヨパンコンクールでも使用されたというフルコンサートグランドピアノを搬入するなどという前代未聞なことが実現しようとしています。これを

実現させた高松高校諸先輩のネットワークについてはもう底力を見せつけられたの一言に尽きます。フォークダンスについて

はその場のノリでみんな楽しく踊ってくれるといいな、と準備している段階では思っていますがさて当日どうなりますこと

か。ちなみに幹事団は打ち合せて楽しく踊っています。この企画、実は文化祭の前夜祭が3年連続して雨で流れたという昭和58年卒業生の25年越しの執念がこもった企画という噂もあります。さらに第25回記念総会の記念に校章と日付の入ったB5サイズの瓦せんべいを、

久つ和堂総本店様の協力をいただいて記念品として作成しました。ご参加のみなさんに一枚ずつお持ち帰りいただきますが、食ってしまっているのか保存しておこうと思うのかというあたりでみなさんの葛藤がみられそうであり、実はそれも楽しみです。

総会以外の活動として高松高校研修旅行生の受け入れについても今年で3回目となり、6月21日

に実施されています。受け入れする職場も26ヶ所と増えており、高松高校生・東京玉翠会双方にとって実りある行事として定着してきております。

簡単ではございますが、以上をもちまして、東京玉翠会の近況報告とさせていただきます。

佐々木英夫(昭和58年卒)

岡山玉翠会 Okayama gyokusui



玉翠会のみなさま、お変わりなくご活躍のことと存じます。岡山支部のある岡山市は母校の高松市と向かい合う隣県ですので、テレビ局など、マスコミ報道も毎日相互に情報交換でき、同一地域にいる感じが強くなっています。

さて、昨年の第28回岡山玉翠会総会は、平成18年10月22日(日曜日)、



第28回 岡山玉翠会総会

午後3時30分から例年と同じ岡山駅前のアークホテル岡山で開催されました。恩師としては、溝渕利博校長先生、菊池和也先生、岡崎仁一先生がおみえになりました。そして、溝渕校長先生は、高松高校の「文武両道」の指導方針や、「独立自由」の精神も生き続け、年度別進学率も、有名大学合格率の前年度との増加率が全国一位になったと嬉

しいニュースを紹介してくださいました。最近先生の顔を拝見すると、母校の健在振りが身近に感じられるとともに、今年はどうかなお話をご教示くださるか大変楽しみにしています。来賓として真鍋武紀香川県知事、塚本修徳島玉翠会前会長、太田房雄徳島玉翠会会長、渡辺謙徳島玉翠会副会長、本部から多田野久顧問、大西大介会長、脇和子副会長、常谷忠克副会長がおみえになりました。スピーチは、大西大介会長から玉翠会の活躍の様子、いつも笑顔の真鍋県知事からは、香川県の将来について楽しい計画や映画ロケのお話などいただきました。

昨年、岡山県副知事として山口裕視さま(昭和54年卒)が、また、一昨

年には吉鷹秀範博士(昭和56年卒)が心臓病センター・榊原病院副院長として、ともに東京玉翠会から岡山玉翠会へ入会され、行政に、心臓病手術や心臓病検診にご活躍され、私たちは大変心強く思っています。役員も高齢化しましたが、東京や関西地区のように大都市ではなく会員が大勢いまして、幹事を同学年でなどとぜひたくには企画できません。今しばらくこのままで、母校を直接応援できる近くの玉翠会として徳島と一緒に力を合わせてがんばり、またすばらしい同窓生の仲間として楽しみ、若い人も高齢者も幸せに健康に過ごせるようにと思っています。

辻 孝夫(昭和30年卒)

総会の懇親会風景

右写真▶
左から 多田野顧問、溝渕校長、真鍋県知事

◀左写真
左から 山口岡山県副知事、河野副会長、太田徳島会長



関西玉翠会 Kansai gyokusui

玉翠会本部並びに各支部の会員の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、関西玉翠会は、昨年九月三十日に帝国ホテル大阪エンパリアルムで三五〇余名の会員を

集め第十四回総会を盛大に開催しました。テーマは「高松へ帰ろう」高松

今と昔。終始会場のプロジェクタースクリーン

に映し出される高松市内の今昔の懐かしい映像、

全員参加のジャンケン大会、応援団によるエール

と高中、県女、高松の校歌斉唱と、あつという間

の二時間半でした。最近巷では、うどんブーム、

映画ロケ等「さぬき」が賑わっておりますが、昨

年のテーマは、まさに時代を背景に我々の郷愁を誘うタイムリーなテーマ

でした。

一昨年より幹事を二代のOBで受け持つことになり、五十年会が月二



高高文化祭：入口の風神雷神モニュメントと中庭の黒船

ちの活気溢れる姿に驚かされ、やんちゃであった自分たちの昔の姿が懐かしく思い出されました。

また、二日目の「ホームカミングデー」、恩師の授業を受けられるというユニークな企画に、久々に学生服を着込んで最前列に陣取って受講、母校への郷愁がひとときわ強くなったことを覚えていま

す。



高高文化祭 ホームカミングデーにて起立して質問に答える筆者(学生服姿)

今年の総会は、十一月十日(土)十六時〜十八時三十分、大阪全日空ホテル3階万葉の間で開催いたします。テーマは、「文化祭やるげな〜な

んとな!」。この懐かしい文化祭に新たな思い出を重ね、会員の繋がりをさらに深めてもらい、今後の活動のエネルギーにしてほしいという思いを、

私たちはこの言葉に込めました。



関西玉翠会 藤井会長

玉翠会京阪神支部創立の昭和三十八年から数えて四十四年目になります。が、社会や世相が大きく様変わりしようとしている中で、関西玉翠会は、「讃岐弁でわいわい騒ぐ、すると昔の原風景、瀬戸内海、築港、連絡船、こ

喜びを享受する場であり、また、「玉翠会の縁を意

玉翠会創設当初に就任された藤井義弘会長(十八年卒)と、五十歳の年に幹事を引き継いでいくことが決定した昭和五十七年に就任された島田清隆副会長(二十六年卒)のご両名が退任され顧問になられます。お二人とも

玉翠会本部並びに各支部および会員の皆様方、今後の益々のご発展を心より祈念いたしております。

田岡道朗(昭和51年卒)



ジャンケン大会



校歌斉唱



2006年9月30日 第13回関西玉翠会総会(帝国ホテル大阪)

徳島玉翠会 Tokushima gyokusui

徳島玉翠会では、これまでの課題だった体制づくり活動会員の増員や会計などの諸問題（東京玉翠会、第二十二回総会誌、二十二頁）、を解決するためにI・Tの活用と役員自らの活動性を議論した結果、二〇〇五年以来役員が一丸となって毎月最低一回以上集まり、会誌の編集・発行や総会の準備と開催に努めました。

また、二〇〇七年にはホームページ（<http://web.mac.com/fusao-ota/>）を公開し、「会員のための情報ネットワークの構築」を主題として新たに会員の「教育・就職」、「医療・健康」及び「社会・生活」面においても支援をする活動を展開しています。卑近な例としては、会員はもとより会員の友人などの子育て支援、結婚相談などもその守備範囲に入れています。これらの三つの支援部門を設置することにより、前述玉翠会本部（高松）、東京玉翠会・関西玉翠会及び岡山玉翠会・東海玉翠会とも緊密に情報を交換しながら、これまでの活動から脱皮して会員に有意義となる会にしたいと考えています。

これら活動には、ICT（電子メール等を中心とする情報交換技術）が不可欠でし、会員皆様の住所録の整備も必要です。また、これらの活動にはまず、中枢部を担うべく本部玉翠会のICT（ソフトとハード面）における充実が必修です。このために、昨年来玉翠会本部の大西大介会長、植松紀子総務部長、また、その方面に知識と経験を有する香川県在住の卒業生とも相談しているところです。幸、大西会長からは前向きのご助言をいただいていることから、多に期待しています。さらに、これらの活動には、玉翠会本部（高松）は言うに及ばず、東京玉翠会、関西玉翠会、東海玉翠会、岡山玉翠会会員の皆様方の絶大・迅速なご支援とご協力が必要で

東海玉翠会 Toukai gyokusui

夏の日盛りに木陰の恋しい季節となりました。玉翠会各員の皆様には、ますますご壮健にてご活躍の事とお慶び申し上げます。

立総会を開催し、満場一致にて可決され設立されました。高松高校野球部が選抜高校野球大会出場を果たしたのを契機に、愛知万博も開催された東海地区に東海支部を設立してはという機運が高まり、平成十八年五月にまず東海支部設立準備金を開催し、約二年かけて東海玉翠会を設立することができました。東海地区における玉翠会会員は、愛知県三五〇名、岐阜県五〇名、三重県三〇名の合計四三〇名の方が登録されており、今全国的に注目されている地区だけに登録されていない若い人も含め



今後ともご協力とご支援を賜りますようお願いを申しあげます。
太田 房雄（昭和36年卒）

晩翠部会 Bansui bukai

卒業60周年 喜寿祝賀同窓会の集い

平成十八年十一月七日
全日空クレメント高松で、戦後初の二十一・二十二年卒業生が九十名元気に顔を合わせました。同じ歳であっても六十年経つとそれぞれ個人差はありますが、往年の呉女の乙女時代にタイムスリップして、広い会場も賑やかで和やかな雰囲気になりました。案内状に「命ある限り前向きに同窓会を続けたい」と思っていたが、全員集合のご案内は「この会で終了させて頂きます」云々と追記しましたところ、北海道・仙台・東京・横浜・阪神・山口・福岡・宮崎・鹿児島・地元を含め日本列島各地から一人の欠席者も



なく三時半に全員出席されたようですが、全く驚く程の進行動作に「さすが雪持笹の呉女の卒業生」だと感心してくれたこと、また後日出席者から大成功の喜びと労いの言葉を頂き私達は感謝感激感動しております。



たスケジュールにしていたようですが、全く驚く程の進行動作に「さすが雪持笹の呉女の卒業生」だと感心してくれたこと、また後日出席者から大成功の喜びと労いの言葉を頂き私達は感謝感激感動しております。

光海軍工廠跡地を訪う

このことは何故か忘れられない。

今年の五月、光市の旧光海軍工廠の会「海光会」からお誘いがあって、丸亀高女六人、高松高女六人で参加させて戴いた。不思議なことに、光市の地元では私たちはいまだに女学生のままであるらしい。八十才を迎え、体力の衰えも著しいのだが、地元の方のイメージでは発刺とした女学生のままであるのか。当時は誰しも彼もみんな若く、厳しい戦時下を共に生き、生死までも共にしたという連帯感がそう思わせるのかも知れない。

総会の翌日、私たち十二名はお世話して下さる方があって、旧工廠跡地の三分の一の敷地を所有

する武田薬品工業に入れた。外部の人の出入りを極端に嫌う薬品会社としては破格のご好意で、ホテルのマイクロバスに武田の幹部お一人が同乗して丁寧に案内して下さいました。光工廠は当時最先端の新設工場だったのだが、終戦前日の大空襲で殆ど壊滅していた。しかし敷地が広大な上に、もともと三百メートル平方に整然と区画されていたので、緑樹帯に沿う静かな薬品工場群に代わった現在でも、昔の工場配置の記憶は辿りやすかった。

なかにか所、黯くひっそりと繁る木陰にかつての防空壕がそのまま遺されていた。小さな懐中電灯を頼りに一段ずつ下り

卒業を三ヶ月後にひかえた高松高女、丸亀高女、明善高女併せて二百余名が挺身隊として、山口県の光海軍工廠に赴いたのは昭和十九年の初頭であった。大きな工場などない香川県に育った者にとつて、百万坪の敷地に三万数千人の従業員を擁する工廠は想像もつかない巨大なものであった。そんな中で香川県の女学生は優秀だと思われたばかりに、かえって少人数ずつ総務、医務、砲煩、水雷、製鋼、爆弾と多くの係・工場に分散され、友だちと会うこともめったに出来ず、戦いの勝利だけを願って仕事に励んだものであった。そうした日々を楽しむ思い出がなかった筈なのだが、光

てゆく階段には乾いた落ち葉が散り敷き、私は一瞬背後に数万人の従業員たちのどよめきを感じた。昭和二十年八月十四日正午過ぎ、真っ青な夏空にまるで湧きあがるように突如として飛来して来たB29の大編隊、津波のように逃げ惑う従業員たち、すさまじい爆弾投下であった。私は廠外の丘陵に逃れたが、頭上を通過して行くB29の搭乗員の顔をはっきり見だし、翼の風圧で吹きざぎざられた山桃の枝がばさばさと辺りに落ちるのを見た。また靑空が熱い太陽を包み込んで灰色にかき雲って行くさまも目の当たりにした。幸い高松高女は全員かすり傷ひとつ負わず無事だったが、丸亀高

女は一人の死者と負傷者を、明善高女は一人の重傷者を出した。

マイクロスコープは丸亀高女に加藤さんが亡くなった水雷部主基工場跡と思われるひっそりとした空き地にとまった。涙ぐんで合掌する丸亀高女の人たちの姿には、終戦前日の友の死への深い悲しみが込められていた。私たちもまた言葉を失って共に瞑目した。そこから見渡せる瀬戸内の海だけは六十年前と変わることなく穏やかに輝いていた。その海はまたかつて工廠に隣接する『回天』の基地から、菊水隊の吹き流しをなびかせて特攻隊員たちがいでたった海でもあった。

脇 和子（昭和19年卒）

脇 和子（昭和19年卒）

改修行われる

第56回 文化祭行われる 「雷轟拡銘」のテーマの下に

平成十八年度の第五十六回文化祭は九月九・十日(土・日)に行われました。テーマは「雷轟拡銘」。高松の名を轟かせるような文化祭にしようという思いをこめて付けたテーマですが、その名の通り、雷雲を呼び寄せてしまったのか、雨模様に加え、十日には本物の雷鳴も轟くようなあいにくの天候になってしまいました。しかしながら、生徒はそれに屈することなく、最優秀賞を獲得した二年三組の壁画「モナ・リザ」や、「バイレーツオブカリビアン」を彷彿とさせる海賊船、巨大骨格模型による恐竜展や自主制作映画、文化部長など、見どころの多い文化祭になるよう、それぞれに、夏休みからの努力の成果を発揮していました。

第1回 ホームカミングディ大盛況！

平成18年9月10日(日)午後、玉翠会はじめてのホームカミングディを実施。高高文化祭2日目にあたるこの日は、にわか雨が降ったり不安定な空模様だったが、開始の午後1時前には会場である教室が前の端の席まで、すっかり埋まった。

会場は、普段は補習科70人が使っている少し広めの4階の教室。久しぶりの机で少し緊張気味の元高校生の中には、姪の制服を借りてきた、という40歳のフロム東京さんや、学ラン着た部長課長級の風格のフロム京都フロム大阪くん達が4、5名。

企画運営にあたった昭54卒の6名で受付、進行、接遇等にあたった。

1:00 大西会長あいさつ 「卒業生が母校を訪ねる一つのチャンス。ぜひ来年からも続けてほしい。」

1:05 松岡和枝先生(日本史)登場。

「きりーっつ！」生徒当時よりは多分びしーいって揃った全員の起立。隣の子の椅子を引いてお尻からずっこけさせたり、一通りのことは楽しんでらっしゃる様子。裏話だが、お招きする恩師候補者の中の1先生だったら、教室の前のドアに黒○消しをはさんでおこうではないか、とのおふざけ案もあったりした。

松岡先生は、当時と全然変わらぬお肌のツヤ。資料プリントを4枚配布。さすが当時と変わらぬ教材研究。過去50年間の男女別名前上位10位までの一覧を見ながら、「この資料からわかることを述べなさい。」という発問。さっそくに学ランくんの一人が挙手。はきはきと答える・・・という具合に進み、45分間はあっという間に過ぎてしまった。

後で聞くと、担任してもらったある女性は、「いつあたるか、ひやひやばかりしていた。」そう、よく生徒に目が向いていた。

1:55 木村斉先生(生物)登場。

舞台設営がなされた。教卓を3つ並べて畳(柔道場より)を乗せ、その上にお座布団。演題めぐりもご持参。知る人ぞ知る高座の用意。

お着物羽織姿の上に白衣を召されて登場。沸く教室。「みんな年とったのおお・・・」から始まる。

ちなみに、先生はお弟子さんが、奥様の「お稽古」さん(本名も木村恵子さん)以下、11名いらっしゃる。各地でその芸をご披露されている。例えば悪徳商法に騙されぬよう高齢者向けの「落語に『悪徳商法にご注意』の内容を入れ込んだ」高座(講座)もNHKニュースで報道された。

前半はまじめに生物の授業。後半はお座布団にお上がりになった。

後日素敵な記事を書いてくださった山陽新聞の記者さんに感謝。

2:40 木村先生ご退場

カッコよくスーツでお決めになった紳士が木村先生に駆け寄る。「僕、先生の授業を受けて生物の方向に進みました。今、アメリカの大学で教えてます。先生が僕の原点です！」そう、県内はもちろん、関西、東京、新潟、そしてこのためにアメリカから駆けつけた教え子もいる。計77名の参加者。机はもちろん満席だったが、後ろでずっと立っていた元生徒もあふれんばかり。



充実した 高高芸術祭

五月の体育祭、九月の文化祭と共に、十二月の芸術祭は、高松高校内にとどまらない、高松の冬の風物詩となりつつあります。平成十八年度には、十二月十三日(水)～十五日(金)に高松ハートフルギャラリー、十二月十四日(木)に高松ハートフルコンサートが開催されました。

ハートフルギャラリーは、本校玉翠ホールにおいて美術・書道を授業で選択した生徒の作品を展示するもので、平成十八年度には手のデッサンやイラスト文字のデザインなどの美術作品が約二百点と、臨書などの書作品が約三百点展示され、来客の方々の目を楽しませました。また、ハートフルコンサートは吹奏楽委員会、音楽部、オーケス

トラ部の演奏、書道部による書作実演の後、ベイトーヴェンの交響曲第九番第四楽章の演奏が行われました。当日はあいにくの雨模様でしたが、音楽選択生徒に一般参加者と職員が加わり、総勢三百十名が三ヶ月に及ぶ練習の成果を遺憾なく発揮しました。練習の中では、コンサートのために帰讀されていた玉翠会会員で東京芸術大学教授の林康子氏の指導を受けるとい

うまとない機会も得ることができました。参加者一人ひとりにとって思い出深い演奏会になったことと思います。本年度にはハートフルギャラリーが十二月十二日(水)～十四日(金)の期間、二十回目を数えるハートフルコンサートが十二月十四日(金)に



玉翠会費納入にご協力下さい

多数の会員の皆様より会費の納入をいただいております。厚くお礼を申し上げます。あらためて申すまでもなく会費は玉翠会の運営上貴重な財源であります。財源の安定が急務となっておりますので、会員の皆様方には会費の納入について格別のご協力をお願い致します。また代議員、支部役員、職場の幹事の方々のご援助により納入額の増加に努めたいと考えておりますので何卒よろしくお願い致します。

先輩講演会と玉翠グローバルアカデミー

以前から実施しております「先輩講演会」に加えて、希望者参加の「玉翠グローバルアカデミー(GA)」も今年で六年目を迎え、毎回盛況な講演会となっております。高生が、学問や芸術・文化の各分野の第一線で活躍している方々から直接話を聴き、トップランナーとしての考え方や生き方、そして、各分野の入門的な話に触れ

ることで視野を広げ、知的好奇心を育てることなどが、「先輩講演会」「玉翠グローバルアカデミー」の目的です。これを契機として生徒自身が将来の進路について考え、学ぶ意欲を獲得しております。あらためて、この趣旨に賛同し講演をしていただいた講師の方々にお礼を申し上げます。

平成十八年度は次の講師(ゲストスピーカー)の方をお迎えし、充実した講演会を開催することができました。

〇七月十五日(土)

二見 仁康氏

(昭和50年卒)

国立がんセンター

細胞増殖因子研究室室長

テーマ「遺伝子の病気としてのがん」

〇十月二十一日(土)

本田 由紀氏

(昭和58年卒)

東京大学

社会科学研究 助教授

『ニート』って言うな!』(光文社) 著者

テーマ『若者と仕事』

の現状―不安にならないために―

〇十一月八日(水)

西岡 喬氏

(昭和30年卒)

三菱重工業 会長

日本経団連 副会長

テーマ「航空機と宇宙開発にかける夢」

平成十九年度の講演会を次のとおり予定しています。今後はインターネットの高高ホームページ等で随時お知らせしますので、ご参加ください。ようご案内いたします。

〇十月四日(木)

橋谷 能理子氏

(昭和55年卒)

ニュースキャスター

『サンデーモーニング』

「ナビゲーター21」担当

〇十一月十三日(火)

内海 善雄氏

(昭和36年卒)

トヨタ・T開発センター

最高顧問

前ITU(国際電気通信連合)事務総局長

〇一月十二日(土)

國土 典宏氏

(昭和50年卒)

東京大学医学部准教授

人工臓器・移植外科

投稿募集のお知らせ

玉翠会報では次のようなコーナーを設けたいと考えております。

I 「卒業写真」・・・卒業写真とともに懐かしい高校時代を振り返り、その思い出、エピソードなどを綴っていただくコーナーです。写真は集合写真に限らず、どのような写真でも結構です。世代を越えて、会員の皆様方が高松高校の歴史に触れられるような内容にできればと考えています。

II 「文芸欄」・・・会員の皆様方からお寄せいただいた作品を紹介させていただくコーナーです。具体的な内容については未定ですが、随筆、詩、短歌、俳句など、ジャンルは問いません。

また、「あの先生は今・・・」「ただいま活躍中！」のコーナーに掲載する方のリクエストもお待ちしております。その他お気づきの点などございましたらお聞かせいただけたらと思います。

宛先は「玉翠会事務局」まで、郵送又はFAX、電子メールでお願いいたします。

香川県立高松高等学校玉翠会事務局

〒760-0017 高松市番町3丁目1番1号
電話 (087) 831-7251代 FAX (087) 831-0010
mail:gyokusui<takakou@mail.netwave.or.jp>

新年度(平成19年)会費を受けつけております

年会費 1口 1,000円
同封の「玉翠会費納入用紙」をご利用下さい。